

【14 釈 文】 吾妻郡上沢渡村年貢上納日限取決め願ひ

(安永九年：一七八〇)

乍レ恐以ニ書付一奉ニ願上一候

上州吾妻郡上沢渡村奉ニ申上一候、拙者共村方之儀、從ニ前々一御年貢御上納之義者、

御代官様御替り度毎、御定日御願奉ニ申上一、

則願之通被ニ 仰付一被ニ下置一、尅ヶ年ニ三度、七月十日・

十月十日・十二月廿日、右三度ニ御年貢御上納仕

来候、何卒御慈悲を以、只今迄之通御年貢御上

納之儀、七月十日・十月十日・十二月廿日、三度ニ奉ニ御上

納一候様、御定日御願奉ニ申上一候、右願之通被ニ 仰付一

被ニ下置一候ハ、幾重ニ茂難レ有仕合ニ奉レ存候、以上

上州吾妻郡

安永九年子十一月

上沢渡村

名主 久兵衛<sup>印</sup>

遠藤兵右衛門様

与頭 清 蔵<sup>印</sup>

平岡 彦兵衛様

同断 義右衛門<sup>印</sup>

御役所

同断 四郎兵衛<sup>印</sup>

同断 次右衛門<sup>印</sup>

同断 次左衛門<sup>印</sup>

同断 武右衛門<sup>印</sup>

(以下、百姓代連名略)

【14 読み下し文】

恐れ乍(なが)ら書付を以(もつ)て願ひ上げ奉(たてまつ)り候

上州吾妻郡上沢渡村申し上げ奉り候、拙者共村方

の儀、前々より御年貢御上納の義は、

御代官様御替り度毎(たびごと)、御定め日御願ひ申し上げ奉り、

則ち願ひの通り仰せ付けられ下し置かれ、尅ヶ年に三度、七月十日・

十月十日・十二月廿日、右三度に御年貢御上納仕

来(しきたり)候、何卒御慈悲を以て、只今迄の通り御年貢御上

納の儀、七月十日・十月十日・十二月廿日、三度に御上

納奉り候様、御定め日御願ひ申し上げ奉り候、右願ひの通り仰せ付けられ

下し置かれ候はば、幾重にも有り難き仕合わせに存じ奉り候、以上

上州吾妻郡

安永九年子十一月

上沢渡村

名主 久兵衛<sup>印</sup>

遠藤兵右衛門様

与頭 清 蔵<sup>印</sup>

平岡 彦兵衛様

同断 義右衛門<sup>印</sup>

御役所

同断 四郎兵衛<sup>印</sup>

同断 次右衛門<sup>印</sup>

同断 次左衛門<sup>印</sup>

同断 武右衛門<sup>印</sup>

(以下、百姓代連名略)